

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術ワーキンググループ（第16回）-議事要旨

日時：平成27年12月11日（金曜日）9時00分～11時00分

場所：経済産業省本館17階国際会議室

出席者

ワーキンググループ委員

朽山委員長、宇都委員、蛭沢委員、長田委員、三枝委員、谷委員、遠田委員、徳永委員（※「徳」は「心」の上に「一」が入る）、丸井委員、山崎委員、渡部委員

経済産業省

吉野資源エネルギー政策統括調整官、多田電力・ガス事業部長、畠山電力・ガス事業部政策課長、小林放射性廃棄物対策課長

議題

1. 科学的有望地の要件・基準について

議事要旨

朽山委員長から、資料1について説明

事務局（小林放射性廃棄物対策課長）から、資料2、資料3について説明

委員からの御意見

- 全国シンポジウムで「地下研究所では地下水が大量に出ているが、地下水が豊富な日本で地層処分は可能なのか」との意見があった。溶存物質を多く含む地下水の地下研究所への流入を懸念したと思われるが、地下水が超長期的に閉じ込められていることを示唆するものであり、地下水が超長期的に安定していることの示す一つの証拠。観測事実の説明にあたっては、このように、安全や安心につながる情報も加えることが重要。

委員からの御意見

- 全国シンポジウムは技術の中身をお知らせするという意味では非常に成功だったと思う。
- 最終処分の問題は国民全体が考えるべき問題であり、必要性を理解いただく上では、最終処分のみならずエネルギー全般も併せて説明することが必要。

委員からの御意見

- 関連学会への情報提供・意見照会について、中間整理（案）だけではなく、概要版も必要ではないか。また、国民向けには、図を主体としたパンフレットなどを作ると良いのではないか。

委員からの御意見

- 全国シンポジウムは、冷静に穏やかに進んだと思う。一方、一般市民に取っては質問の仕方がわからないといったようなずれ違いもあると感じた。今後は、市民の側に立った説明へと工夫していく必要がある。
- 中間整理（案）の6章に、「沿岸海底下」、「沿岸部」など用いられているが、理解の仕方にばらつきが生じないように整理することが必要。島を含む陸域の沿岸部ならびにそれに隣接した沿岸海底域の地下をスクリーニングしていくというような趣旨で文言を修正できないか。
- 沿岸部の場合、地下施設への「塩水」流入の可能性と記述しているが、「海水」あるいは「海水系の塩水」のような形で修正してはどうか。

委員からの御意見

- 中間整理（案）は今までの議論が丁寧にまとまっており、学会員への情報提供・意見照会としては活用できると思うが、一般の方を対象にする場合は、内容が伝わるよう工夫が必要。

- 中間整理（案）の第5章の「回避が好ましい範囲」は、「今後様々な調査研究等が行われデータが充実していくことで適性がより明確になっていく可能性があり、将来的に法定調査を進めていく価値が否定されるものではない」という記述は重要で、図5.1の脚注にも加えてはどうか。
- 資料3の位置付けとして、沿岸部が現状で「より適性の高い地域」として議論されているが、技術的課題がある可能性から、研究会において別途検討すると理解しており、位置付けを明確にしておく必要がある。

委員からの御意見

- 図表化された部分に注目がいきがちであり、図で示す時は細部も含め工夫が必要。

委員からの御意見

- 全国シンポジウムでは、東京会場では非常に活発な意見が出ていたという印象。回を追うごとに意見が少なくなったとすれば、それは何故か。
- 学会の会員に広く説明していくことは重要であり、そのための手順を丁寧に考えることが重要。

委員からの御意見

- 輸送時の安全性と地質環境に係る検討は時間スケールなどが異なることから、双方で出てきた結果を重ね合わせるときには留意が必要だが、要件・基準の抽出としては丁寧にできていると考える。

委員からの御意見

- 今後について、科学的有望地のマッピングを出していくことは大変なことかとは思いますが、国の責任としてアクションを起こすことが重要。

委員からの御意見

- 沿岸の地質については、海域と陸域の接続部の地質には空白の箇所があるなど今後の技術課題もある。研究会を進めていくにあたっては、そうして課題も含めて誤解が無い様に整理できると良い。

事務局（小林放射性廃棄物対策課長）

- 全国シンポジウムについては、各会場で規模や時間帯の違いもあったが、どの地域も強いご関心があったと認識。
- 今後、どのような形での情報提供が好ましいか多くのご意見をいただいた。今回の中間整理（案）は学会への意見照会を念頭に整理しているが、一般の方にわかりやすい形でまとめるということも、今後進めていきたい。

朽山委員長

- 沿岸部は輸送時の安全確保の観点から「より適性の高い地域」として整理された。一方で、議論の中で不十分な部分も出てきたことから、それらの技術的課題については今後研究会で議論してもらおう。

事務局（小林放射性廃棄物対策課長）

- 沿岸部における処分についての研究会は、受け止められ方が狙いと異ならないように注意深くやりたい。
- 専門家への意見募集に関しては、既にこれまでも複数の学会に所属会員への周知を依頼し、協力をいただいたこともあり、そうしたことは今回も可能と考えている。その上で、広く周知し、検討成果の精緻化を図るという目的に沿って、どのような方法が可能か、個別に相談していきたい。

朽山委員長

- 科学的有望地の要件・基準の検討は、どこが適地かということではなく、「そもそも地層処分とはどのようなことか」をわかってもらうために、科学的根拠を含め検討したもの。マップを作るのではなく、その根拠を整理することがこのWGとして重要。

事務局（小林放射性廃棄物対策課長）

- 科学的有望地については、特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針において、国が提示すると5月に閣議決定されている。
- 「沿岸海底下」、「沿岸部」などの用語の定義は今後整理していきたい。

委員からの御意見

- 本WGでは、科学的有望地の要件・基準を透明性を持った根拠を基に検討しており、その要件・基準を用いれば、提示する図面については主体が誰であっても同じと理解している。
- 中間整理（案）の5章の構成は、図5.1に対応するように、「適性のある地域」の中に「より適性の高い地域」が含まれるよう、章番号を新たに設けることでわかりやすくなるのではないか。

委員からの御意見

- 「適性の低い地域」の方にも、最終処分の問題を考えるきっかけを作っていくようなことがあり得ないか。そうしたことを考えていくことも重要ではないか。

朽山委員長


- 中間整理（案）は本日いただいた御意見を基に、委員長の一任のもとで修正し、今後各方面への情報提供や意見照会を行っていくために中間整理としてとりまとめることとする。

以上

文責：事務局（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課）

関連リンク

[総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術ワーキンググループの開催状況](#)

[動画1（YouTubeへリンクします）](#) 

[動画2（YouTubeへリンクします）](#) 

お問合せ先

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課

最終更新日：2016年1月26日